

浜田市における中近世石造物

榊原博英・藤田大輔

はじめに

本稿では、島根県浜田市の中世から近世の石造物の資料紹介を行う。位置図、実測図はすべて掲載できなかったが、遺跡番号のついた石造物は浜田市遺跡地図（浜田市教委2009、2010、2011、2012、2013）に位置を掲載している。なお、本稿は市内遺跡発掘調査事業で行った分布調査結果等も反映している。現地では、今岡稔、狭川真一、中井均、中村唯史、西尾克己の各氏からご指導を頂いた。また、赤澤徳明、池上悟、佐伯純也、乗岡実、濱野浩美、間野大丞の各氏からは、様々な助言をいただいた。

なお、調査と成果の公開については、関係各所にご承諾をいただきました。

1 中近世石塔の概要

1-1 花崗岩系石塔

夕日ヶ丘石塔（浜田市殿町） 図1

浜田市殿町、現在の浜田城跡のある山を東西に横断する国道9号線の南側丘陵（通称 夕日ヶ丘）の上に大型の花崗岩製宝篋印塔がある。これまで、由来は不明だが13世紀にさかのぼり、県内最古のものとなる可能性（今岡2002）、13世紀末～14世紀前半の製品（今岡2012）と位置づけられている。すでに指摘されている（今岡2002、今岡2013）が、同じ花崗岩でも相輪部は直線的な造りの後補部材、塔身は褐色味が強く別部材に見え、寄せ集めの印象をうける。花崗岩石塔の周囲には金属の錫杖をもつコンクリート基壇の福光石製立像があり、昭和9年銘の玉垣で囲われている。近くの小祠には地蔵1体と中世末期の小型板碑5基がある。この夕日ヶ丘では進入路拡幅工事に伴い確認調査が行われたが遺構は確認されていない（浜田市教委2017）。

昭和4年3月31日の『島根民報』には、1929（昭和4）年3月、夕日ヶ丘公園の私有地に夕日ヶ丘観音院が建立され入仏式が行われたとある（岩町2018）。小型板碑は浜田城山裾にも集積が見られ、当初からあったものを集めた可能性が高い。しかし、花崗岩石塔は中世からこの場所にあったというよりも、昭和初期に他所から移設された可能性が残る。なお、現在は私有地のため、立ち入りに注意が必要である。（榊原）

祇園谷石造笠塔婆（浜田市殿町） 図2、写真図版2

浜田市殿町に所在し、祇園谷にある不動堂の前庭に位置する。総高203cm、塔身一辺30.5cm×27.5cmを測る方形角柱の花崗岩製の笠塔婆である。塔身上部の四面に仏像が彫られていることから、地域の人は「四面地蔵」と称している。

塔身は高さ152cmを測り、東面には定印の阿弥陀如来坐像、北面・南面には右手に錫杖を持つ地蔵菩薩立像、西面には薬師如来と推定される立像が配され、それぞれが蓮華座上の舟形後背内に彫出される。なお、南面下部には銘文が刻まれる。風化により判読が難しいため不確かではあるが、「妙□」、「五日」、「敬白」と読める。上端から約148cm以下では、しっかりとした成形がなされていなく、製作時に想定された地上部の法量がわかる。

笠部は高さ26cmを測り、やや緩やかに軒反りして軒下がのぞき、上端には露盤を作る。

宝珠は上端をわずかに欠損するが、高さは25cmを測り、整った形状である。

塔身・笠部・宝珠とも後補材はなく、当時のままで完存している。石材の花崗岩の色調は、赤色を帯び、瀬戸内産の赤御影と思われる。

製作時期は、笠部や宝珠の特徴は14世紀前半の様相を見せるが、塔身の仏像表現の硬さや蓮華座の形骸化などから、相対的に南北朝期の14世紀中頃の所産と推定される。

来歴は不明であるが、地元の古老によれば、現在須賀神社の境内にある愛宕神社が愛宕山上に鎮座していたころ、社前に据えられていたといい、大正2年(1913)の現在地への移転時に、神仏分離のため不動堂前庭に移されたとされる。ただ、『石見国神社記』によれば愛宕神社は寛永13年(1636)に2代目浜田藩主古田重恒が丹後国愛宕郡愛宕山より勧請したとされており、時期の開きがある。

いずれにせよ、この笠塔婆は、島根県内でも数少ない貴重な南北朝期の石塔であり、なおかつ当時の材が完存し、保存状況も良好な貴重な石造物である。(藤田)

1-2 三隅町の石塔

浜田市三隅町にも多くの石塔が所在し、既に紹介されている(間野1996、今岡1999・2013・2019)。大きく三隅川河口部の湊浦(針藻城下、極楽寺)と三隅川中流域の三隅(洞明寺、正法寺、龍雲寺)にわけられる。

三隅川河口部では、花崗岩の宝篋印塔、五輪塔の部材が確認でき、中世後半の瀬戸内方面からの花崗岩流通は三隅以東で減少する可能性がある。

三隅川中流域の石塔は寺院に多いが、その位置や現状が大きく改変されている点に注意する必要がある。

現在の洞明寺は、三隅川右岸の小野にあり石塔、小型板碑が存在する。しかし、永正15(1518)年には洞明寺山で合戦があったが、その場所は対岸の三隅川左岸にあたる(中司2021)。現在の国道9号線三隅トンネル西側出口北側の山麓にあたるようで、洞明寺の移転と石塔の関係が不明確である。

正法寺は、現在の境内横にある伝三隅兼連墓の五輪塔、離れた位置の民家奥にある伝三隅悪五郎墓の五輪塔が著名である。しかし、現在の正法寺は周辺に宅地が密接し手狭な印象を受けるが、これは近代に農地を売却したためと聞いており、少なくとも伝三隅悪五郎墓のある谷入り口から約350m奥の正法寺奥の院(市指定史跡)までは、往時は正法寺のエリアであったと考えられる。伝三隅悪五郎墓も昭和57年頃の写真(三隅町教育委員会1982)では山裾に西面していたが、災害で斜面が崩れ、現在は南面した位置に移設されており、周辺から見つかった石塔群も集積されている。現在も正法寺の土地である。

龍雲寺も益田藤兼隠居の「三隅之大寺」に比定される(中司2021)古刹だが、現在の寺域前に広がる庭園は棚田を昭和58年災害後に公園化した場所である(西尾ほか2017)。現在の本堂西側の谷川が氾濫したため、大規模な護岸工事が行われている。なおかつ、現在の龍雲寺本堂は天保11年に浜田藩主松井松平家の菩提寺である長安院(浜田市蛭子町)を移したものである(平凡社1995)。石塔は、本堂西奥の斜面の墓地に宝篋印塔の笠部があり、開基三隅信兼の墓とされている。参道沿いにも小型板碑が3基(図4・写真図版1)あるのみで、中世以来の寺伝と比較すると石塔は少なく、災害で流出した点も含め中世の龍雲寺を検討する必要がある。

1-3 浜田市の石塔

伝御神本(益田)氏三代の墓(浜田市上府町)

現在の安国寺(南北朝期以前は福園寺)の東側から登った丘陵中腹にあり、すでに紹介されている(今岡1991、2001)。中世益田氏の前身と伝える御神本氏三代(初代国兼、二代兼信、三代兼栄)の宝篋印塔群だが、完全なものではなく、入れ替わった可能性もある(川崎1996)。基礎と基壇の状況から宝篋印塔は4基以上あったようで、三代の伝承に併せ、正面に小型の基礎と基壇を3基並べている。最も古い宝篋印塔は三代の墓ではなく、中心奥にある大型の相輪、笠部、基礎部が残るもので14世紀後半頃の日引石製品と考えられる。他の石塔はこれより小型で、15世紀前半頃の日引石類似製品と考えられる。安国寺の墓地は寺裏手の丘陵斜面にあり、中世末期から近世の福光石系石塔も多く見られる。

1-4 小型板碑（像容板碑、小型石仏） 図3、図4、写真図版1

いわゆる板碑は一つの石からなり、石の片面を利用して梵字や図像で表された仏菩薩などが刻まれる。典型的な板碑は頂部を三角形にし、その下に二条の切り込みを入れ、表面上部に本尊となる仏の画像や仏・菩薩を示す梵字などを刻む（浅野2007）。ここで取り上げる小型板碑は、高さ40cm前後、幅20cm程度のもが多く、三角形の頂部に額をもつ板碑の特徴があるが沈線のないものが多い。基部は地面に埋め立てるため、粗く尖り気味のものが多い。正面以外は粗割の剥離面をそのまま残し、研磨等の仕上げはない。額部の横断面が平坦なもの（図4-3）、額部中央に縦の稜線を持ち横断面三角形になるもの（図4-2）がある。概ね沈線も入れやすい額が平坦な前者から立体的な後者へ変遷し、前後して全体が形骸化すると考えられるが、中間的なものも多い。意匠は大半が仏像・地蔵（1～2体中心）、で五輪塔（1～2基）が少量ある。他地域では宝篋印塔の例もある。

小型板碑は15世紀後半～16世紀代の石造物で、モデルは敦賀・丹後方面にあり、明らかに異なる石材もあり搬入品が中心と考えられる。石材は多くが安山岩のようで、集積を見ても石材が揃って見えるものが多い。年代は、福井県敦賀市に明応4（1495）年の、五輪塔1基を浮き彫りにする板碑があり、1480年代、15世紀後半から16世紀中頃中心（関根2016）とされている点から想定している。厳密には浜田市に多い仏像、地蔵を彫る小型板碑の実年代資料は確認していないが、かなり簡略化されたものもあり、近世まで降る可能性も残る。

この石造物は、早くから美保関、境港の資料から「山陰型板碑」として提唱されていた（佐々木1956、佐伯2015）。伊藤1968では、温泉津、益田の例が紹介されている。「温泉津地方にあるこれらの像は、もと室町時代の地蔵の小板碑と思われ、近世になって幸の神として信仰されるようになったものと考えられる」とあり、中世の小板碑が現在まで残った経過について指摘している。

畠中1984では分布流通に関して多くの重要な指摘がある。「石仏の分布は山陰の中世の港と濃密に重なり合っており、美保関・境港に多く、一～数体残るところは東伯郡赤碕町赤崎・東伯町八橋・大栄町瀬戸・北条町江北・東郷町東郷などがあげられる。島根県益田市にも見られる。」「石仏の分布は山陰地方の中世の港と濃厚に重なり合っている」「山陰の沿岸部に点々と残るこれら仏像板碑群は明らかに「海の道」によって運ばれた中世史を秘めている」「運ばれたもとの道を尋ねて行けば、若狭の三方五湖周辺に（中略）無数の石仏群を見出すことができる」等である。岡部1987では、「像容板碑」として浜田市相生町2基、長浜町宝幢寺跡17基が紹介されている。

その後、鎌田2000では、板碑形地蔵として旧浜田市内の39地点、127体の表が掲載されている。その後、浜田市長浜町の宝幢寺下の石造物が図示され、福井県の調査例等から山陰の石仏のルーツを北近畿の影響と考えられた（今岡2015）。筆者もこの頃、鎌田2000の地名表が、今岡2015の中世石仏と関連する点に気づき、市内遺跡分布調査等で、その確認を行ってきた。これらを確認する中で、板碑ではない屈曲した光背の地蔵、新しく発見したもので増減し、現段階で157基の小型板碑を確認している。その間、継続して浜田市三隅町（図4）、浜田市長浜町の小型板碑が紹介されている（今岡2019、2021）。

浜田市以外の小型板碑は、松江市美保関仏国寺（松江石造物研究会2014、今岡2016）、安来市広瀬町の資料（西尾ほか2004）、大田市温泉津町（間野ほか2021）、益田市（益田市教育委員会2017、2020）、「山陰の中世墓終焉の様相」（濱野2020）等で紹介されているが、現段階で最も小型板碑が多いのは浜田市である。

小型板碑は、近世以降の祠に他の地蔵、石造物と混在し、前垂れがつけられて観察しにくいものが多い。このため、総数の把握、個々の実測は難しいが、概ね浜田市内で確認したのが表2である。なお、一覧表は浜田市以外の旧町村、山間部では少ないが、今後確認が進めばさらに増える可能性がある。現状でも明らかだが、海岸部、中世の港や町があった場所に多く、山間部は少ない点は変わらないと考えられる。五輪塔を彫る小型板碑は、数は少ないが点在しており、山間部、旭町和田の奥寺石塔（写真図版1）でも確認できる。

分布では、浜田城周辺で約19基、浜田城下町の浜田川以北で約14基、浜田川南西の中世の港町があった可能性が高い地域で約21基あり、最も集積された小型板碑群は宝福寺（浜田市大辻町・写真図版1）の21基である。な

お、小型板碑が残る寺院でも、心覚院（浜田市松原町）、来福寺（浜田市田町・写真図版1）は、江戸時代初めの浜田城築城に伴い、城山から移転した伝承がある。浜田城が造られた山は、中世には山頂の一部に山城として堀切、曲輪、山裾には墓地（小型板碑）のあった丘陵が城郭として整備されたと考えられる（榊原2017）。

浜田市西部、中世の長浜の港があった一帯にも多く分布する。特にこれまで紹介された（今岡2015、2021）長浜町の旧宝幢寺下と宝幢寺山南には9～11基の集積があり、寺院にも1～6基の集積がある。点在するものも含めれば、分布は浜田市長浜町、日脚町、津摩町に多い。この地域は中世の周布氏の拠点で、これまで鳶巣城下の聖徳寺の福光石の宝篋印塔を中心とした伝周布氏の墓が知られていた（浜田市教委2007）。津摩町は中世の「津万浦」にあたる。

一方で、浜田市東部、古代から中世前期に、国府、国分寺、府中があった国府地区には小型板碑は少ない。府中が中世後期には寺社が残る村落的景観になった点（榊原2016）と整合するように見えるが、多陀寺石塔群（今岡2019）、前述の安国寺といった日引石系統から福光石系までの石塔がある寺院は存続しており、単純な衰退を示すわけではなく、信仰、流通の背景が異なった可能性もある。

小型板碑は、前代（14世紀後半～15世紀代）に比べ石塔を建てる文化がより浸透し、従来の宝篋印塔・五輪塔でない阿弥陀・地藏を刻む小型板碑が多く用いられるようになったと考えられる。より石塔類を立てる供養文化が浸透したともとれる。小型板碑は集団墓地の墓標とも考えられ、その後、仏像を刻んでいるためか、地藏など他の石仏との集積が進み、現在は近世以降の地藏と一緒に祠に集積され、前垂れがつけられているものが多い。前述したが、浜田市以外の地域の小型板碑の確認状況をもみても、現段階では浜田市で小型板碑約157基、福光系石塔約109基、温泉津は多くの福光系石塔に対し、小型板碑数点と、特に浜田は小型板碑の多い地域といえる。ただし、福光系石塔は、やや新しい時期のため、単純に比較はできない。小型板碑の大半が搬入品であることも考慮すると、15世紀後半から16世紀代頃の浜田、長浜へ、主に敦賀、丹後方面から多くの石造物の流通があったと考えられる。この時期の陶磁器などの遺物は、温泉津、益田に比べ調査例が少なく遺跡情報はまだ少ない。こうした石造物からも中世の浜田、長浜の様相を伺い知ることができるため、引き続き調査検討が必要である。

1-5 福光石系（火山礫凝灰岩）石塔

福光石は大田市温泉津町福光で主に産出される石で、石見銀山遺跡、温泉津の寺院には、多くの福光石系石塔がみられる。石見地域の分布では、ほとんどが17世紀半ば～18世紀で、16世紀後半～17世紀のやや古い組合宝篋印塔が大田市、江津市、飯南町、邑南町で見られる（今岡2012）。

浜田でも16世紀末以降は福光石系（火山礫凝灰岩）の石塔が多く見られ、一石宝篋印塔が大多数で、一石五輪塔も少量である。このうち、紀年銘のある福光石系石塔は、組合宝篋印塔は寛永17（1640）年、一石宝篋印塔は寛文12（1672）年、延宝7（1679）年、宝永6（1709）年、天明4（1784）年、天明5（1785）年、天保5（1834）年、明治9（1876）年のものがある。一石五輪塔では、寛保3（1743）年のものが、金城地域にある。

明らかに江戸時代後半には古いものをコピーする中で形の直線化、単純化が進む。一方、浜田市旭町和田の神宮寺石塔（島根県教育委員会1991）は、基礎に「天正二十曆…」の銘があり、報告書でも指摘されているが、かなり簡略化した宝篋印塔で、古い石塔を真似た可能性がある。現在は笠部以下が埋没して銘は確認できなかった。

1-6 来待石（凝灰質砂岩）石塔

訂心寺古墓群（浜田市長浜町） 図5

現在の長浜の町にある訂心寺には、福光石系石塔、小型板碑、来待石の宝篋印塔2基がある。この17世紀初め頃の来待石の組合宝篋印塔は、現段階では石見地域では唯一のものである。寺院西側の墓地高所にあり、伝周布元兼・元盛の墓とされ開基として祀られている。周布元兼は天正6（1578）年6月9日播州上月城討死（33歳）、

周布元盛は文禄2（1593）年6月29日朝鮮晋州城落去の際討死（26歳）と伝わっている（山口県文書館1970）。

福光石系石塔が多い石見地域において、出雲の来待石石塔が存在する点は、長浜が中世から近世の代表的な港であり、数少ない搬入品として単純に評価できる。一方で、出雲市平田町では来待石を石材として福光石の形態の宝篋印塔が作られた例もあり、石工の石見から出雲への移動（西尾ほか2004）が考えられている。近世末以降に来待石の粉は石見焼の釉薬として石見地域で用いられ、来待石製品は近代に燈籠を中心として再び石見にも見られるようになる。資源、工人の移動の面からも検討が必要である。（榊原）

2 近世大名墓の概要

江戸時代の浜田藩は、古田家、松井松平家（前期）、本多家、松井松平家（後期）、越智松平家と当主が変わる。それぞれで菩提寺が定められ、いくつかの墓石が残されている。直接藩主を葬った本葬墓は1基しかないが、分霊墓も時代により形態と石材が異なっている。

2-1 古田家 図6、写真図版2

元和5年（1619）に伊勢国松坂城主であった古田重治が浜田へ転封し、浜田藩が成立する。古田家は2代続き、初代古田重治の菩提寺は恵賢寺（浜田市蛭子町・現在の長安院跡地）、2代古田重恒の菩提寺は宝珠院（浜田市真光町）である。宝珠院には、古田重恒の供養塔である五輪塔が所在する。

宝珠院は、寛永14年（1637）3月10日に古田重恒により明宝祖間鑑和尚を開山として創建され、菩提寺と定めたとされる。なお、古田重恒は慶長8年（1603）生まれで、慶安元年（1648）6月16日に46歳で亡くなり、法号は休岩寺殿関雄宗三大居士である。

五輪塔は花崗岩製である。水輪の色調は風化により他と異なるが、すべて当初材と判断され、それぞれに梵字が彫られている。なお、2段の花崗岩製基壇は、昭和62年の水害後に付け加えられた後補である。空輪頂部から地輪下部までの総高は166cmを測る。空輪には丸みがなく頂部が突き出ており、風輪の端部は大きく軒反る。火輪は燈籠に似た形状であり、地輪は縦長で上部は盛り上がり、重恒の法号が彫られている。これらの特徴から、近世後半の所産と考えられる。

2-2 極楽寺 徳川秀忠供養塔 図7、写真図版2

浜田市元浜町の極楽寺には、新旧2基の徳川秀忠供養塔が所在する。

旧石塔は花崗岩製の尖頂方柱形であり、新石塔裏に立て掛けた状態にある。下部が欠損しているが、正面に「台徳院殿 一品大相國公 尊儀」、右側面に「奉 造立施主者 古田…」とあり、残存高120cm、幅34cm、奥行21cmを測る。

新石塔は、棹石・水入・花台は花崗岩、請花・基壇は砂岩である。棹石の上部を欠いているためにはっきりとしないが、旧石塔にならって尖頂か円頂方柱形となると思われ、正面には葵紋が加えられている。

なお、徳川秀忠供養塔は、島根県浜田市極楽寺、群馬県前橋市養林寺、京都府宮津市大頂寺、和歌山県高野町金剛峯寺の4ヶ所に建立されている（秋元2008）。

2-3 松井松平家（周防守家） 図8、写真図版2

古田家断絶後、慶安2年（1649）に松井松平家が播磨国宍粟より浜田へ転封する。松井松平家の菩提寺は、浜田市蛭子町の浄土宗長安院の跡地に所在した。当初、ここには初代浜田藩主古田重治の菩提寺である恵賢寺が建てられていたが、松井松平家転封後の慶安3年（1650）に菩提寺である長安院が造営されたという。続く本多家時代は西岸寺と改称されるが、再び松井松平家が浜田に戻ると長安院に復された。天保7年（1836）に松井松平

家が浜田から移封すると、残された本堂は三隅町芦谷の龍雲寺本堂として移築されて、現在まで残されている。

墓所には、5代浜田藩主松平康員、7代・11代松平康福、12代松平康定の3基の藩主の供養墓があり、並んで松平康房（康員の弟、早世）、その奥に一族の墓地がある。これらの墓碑はかつて、現在地より高手の傾斜地にあったが、昭和63年の豪雨で被災し移設がなされたものである。このため、それぞれの墓石の宝珠・笠石・棹石・請花・基壇、水鉢・花台のセット関係が崩れていると考えられるが、現状の図面を掲載している。

これらは笠付方柱墓碑であり、松平康房の宝珠・笠石・棹石が砂岩、その他は全て花崗岩製である。

2-4 本多家

前期松井松平家の後、宝暦9年（1759）に本多家が古河藩から移ってくる。本多家の菩提寺は、前述のとおり、長安院を西岸寺と改称して利用していたが、藩主に係る墓碑は残っていない。既に解体されているが、長安院跡地にあった位牌堂内壁には本多家家紋である立葵紋があったという。

2-5 越智松平家（右近将監家） 図9、図10、写真図版2

後期松井松平家の後、天保7年（1836）に越智松平家が館林藩から移り、妙智寺（浜田市殿町）を菩提寺と定める。このため、本堂には越智松平家の家紋である葵紋の鬼瓦が葺かれており、境内には同家家臣の墓も複数所在している。

境内には、16代浜田藩主松平武揚の墓所がある。松平武揚は文政10年（1827）6月14日に高松城で生まれ、天保10年（1839）11月に15代浜田藩主松平斉厚の義子となり、同年12月に襲封する。天保13年（1842）7月28日、16歳で浜田城において亡くなり、墓所が菩提寺であった妙智寺に造営された。他の越智松平家藩主は、東京都荒川区善性寺に埋葬されたため、武揚墓が浜田に所在する唯一の本葬墓となる。

墓所は、本堂北側に位置しており、すぐ西側には位牌堂がある。外玉垣は東西6.60m×南北7.64mの規模であり、基礎には間地積み石垣が巡る。現在、石垣上はレンガ積みの植栽区画であるが、住職の聞き取りによると、昭和58年（1983）7月豪雨までは塀であったという。幸いなことに、この豪雨被害は塀のみで墓石などへの影響はなく、原位置のままということである。なお、明治6年（1873）5月の妙智寺境内図を見ても、「本堂」と「御霊屋」の間に、基壇を伴う墓石が描かれ、「御墓」と敬称を付して記されている。

外玉垣内には、内玉垣が巡る松平武揚墓と同夫人の遺髪碑である「敬乗大夫人遺髪之碑」及び石灯籠2基がある。

石灯籠は砂岩製で、基礎・中台・笠は正六角形をしている。なお、中台・笠の正面には葵紋が配されている。

敬乗大夫人遺髪之碑も砂岩製で、2段の基礎石を伴う。下段基礎は東西93.0cm×南北94.0cm、高さ32.0cmの規模で2石により築かれ、前面には葵紋入り水鉢1つと無紋花台2つが置かれている。上段基礎は一辺66.5cm四方、高さ30.5cmの1石で、上部は水平となっている。石碑は上段基礎の中心に置かれ、東西36.5cm×南北35.0cm、高さ97.0cmを測る平頂方柱である。正面に「敬乗大夫人遺髪之碑」、他3面には漢文で石碑建立の経緯等が刻まれており、文久2年（1862）9月に建てられたことがわかる。

武揚墓を囲む内玉垣は、基礎部分で東西3.35m×南北3.14mの規模を測る。基礎はコンクリート被覆されているため、旧状は不明である。正面に当たる西面の門や玉垣の親柱、子柱及び笠石は当時の砂岩製であるが、北・南・東面は親柱以外がブロック塀に変わっている。

門には観音開きの扉があり、両扉上部は格子状の窓、下部は葵紋が彫られている。両扉上下の軸受けには金具が取り付けられている。扉中央には金属製の鍵もあり、正面向って左側を押し上げることで開錠する仕組みであり、門扉の柱の形状から手前側に開く仕様である。門上部は神明鳥居の笠木状になっている。

内玉垣内には、2段の基礎石を伴う砂岩製の武揚墓がある。下部基壇は東西182cm×南北183cm、高さ50cmの規

横であり、2石で構成している。前面には葵紋入り水鉢1つと葵紋入り花台2つが置かれる。上部基壇は東西115.5cm×南北114cm、高さ44cmを測る1石であり、敬乗大夫人遺髪之碑と異なり上部4cm分が一段盛り上がっている。

墓石は、上部基壇の中央に置かれ、一辺58cm四方、高さ145cmの平頂方柱で、正面に「大乘院殿從四位下詣山府君之墓」、他3面に漢文で事績が刻まれる。碑文から、武揚墓は1周忌にあたる天保14年（1843）7月に造立されたことがわかる。

松平武揚墓と敬乗大夫人遺髪之碑の建立時期には19年の開きがあるが、下段基礎を2石、上段基礎を1石で築き、石碑は平頂方柱で4面に文字を刻むなど同構成で造営され、岩質や平面上の軸も揃えられている。なお、遺髪碑の両基壇と石碑のそれぞれの高さは、武揚墓のおおおよそ3分の2となっている。本葬墓と遺髪碑という性質の違いはあるが、規模や上部基壇上面の形状、葵紋入り花台の有無などの差異もあり、越智松平家の墓制における思想を表していると考えられる。（藤田）

3 おわりに

浜田市での中世から近世の石塔は、由来が不明確だが、中世の港町から近世の城下町に続く現在の浜田市街地で13世紀末から14世紀頃の夕日ヶ丘の花崗岩製宝篋印塔があり、その後の南北朝期には花崗岩製笠塔婆がある。これらの花崗岩製品は瀬戸内方面から浜田の湊へと搬入されたと考えられる。古代から中世前期にかけては、浜田市東部の国府地区には、国府推定地、国分寺、府中があり、14世紀頃から衰退する。その衰退期と一部重なるように、その後も発展した浜田の港町への石塔の流通を伺うことができる。

14世紀後半以降は、日本海東側からの日引石（類似製品含む）、三隅を中心とした花崗岩石塔の西からの流通も認められ、それぞれの地域で五輪塔、宝篋印塔が立てられるようになる。その後、15世紀後半から16世紀頃には、小型板碑が多く用いられ、現在の海岸部、浜田地区（浜田の湊）、西の周布地区（長浜の湊）に多く残っている。この石材は安山岩系のもが多く、周辺と地元で安山岩系石造物の産地もないことから、多くが北丹後方面からの搬入品と見られる。なお、浜田城の石垣は、主に周辺の流紋岩が用いられている。形状、仏像の彫り方など、細かな検討まで行っておらず、数の多さもあって、今後も分布、形態による検討は課題として残る。

16世紀末頃からは福光石系石塔が増えるが、一石宝篋印塔が大多数で、一石五輪塔が少ない点の特徴であり、その信仰背景も検討課題である。近世も福光石系石塔は造られ続け、山間部では、明治の一石宝篋印塔まで確認できる。後述の、近世的な墓石の導入以降も古い形の石塔を立てる供養形態が残ったことを示している。

寛永9（1632）年没の徳川秀忠供養塔は、旧石塔（図7右）が花崗岩製の頂部が三角形の尖頂方柱墓碑である。古田氏は慶安元（1648）年に断絶するため、17世紀第2四半期頃の供養塔と考えられる。浜田城下町の寺院墓地では、古いもので寛文年間（17世紀後半）頃の尖頂方柱墓碑が散見できる。少ないながら福光石系石塔も確認でき、この頃には中世的な石塔文化から近世的な墓標に移り変わり、その中心は浜田城下町と推測できる。なお、益田市神田町でも寛文8年の尖頂墓碑が報告されている（益田市教育委員会2020）。

花崗岩の尖頂墓碑は、花崗岩の組合笠付方柱墓碑に変遷する。浜田藩主松井松平家墓地（長安院・17世紀後半～19世紀前半・図8）の分霊墓がその典型例で、周辺にある家臣墓には尖頂墓碑、円頂墓碑もある。ただし、藩主の組合笠付方柱墓碑の分霊墓は地域最大規格ではなく、各地に残る庄屋墓地（津和野町青原 原田家墓地・享保13年・3段の基礎石）と規模は変わらない。

19世紀前半頃からは、藩主が越智松平家に代わり、砂岩（尾浦石）の平頂方柱墓碑、三面に碑文を刻むものが盛行する。重厚な一段ないしは二段の基礎石を伴う、本体頂部を平坦とする平頂方柱墓碑であり、基礎石の正面に家紋を大きく刻む墓石が目立つものである（池上2021）。その頂点になるのが、浜田市に残る唯一の藩主本葬墓である松平武揚墓（図9、図10）である。家臣団の墓碑は、妙智寺、観音寺では、同じ平頂方柱墓碑が多く、

大型のものは3面に碑文を刻む。大きさには様々なものがあり格式も反映されていた可能性がある。一方、この頃には小型の福光石円頂墓碑も一般に普及するが、碑文は刻まざり墓石奥行きは家臣墓より短い。

なお、慶応2(1866)年の幕長戦争の戦死者で、益田市万福寺椎山墓地に花崗岩の組合笠付方柱墓碑「永井金三郎碑」、横に福光石の小型合葬墓がある。合葬墓の横に、先祖帰りのように古い時代に盛行した笠付方柱墓碑(供養塔)を立てている。平頂方柱墓石でない点も、格式を反映したものかもしれない。

中近世の石塔、墓を中心に概観したが、図面・写真が少なく、記述だけで判りにくい点も多くなった。石見銀山、温泉津、松江などでは石造物の総合調査が継続して進められ、大名墓も松江松平家墓所、津和野亀井家墓所などが調査されている。山陰沿岸部の小型板碑の分布数など、すべての石造物の確認と報告は困難な点も多いが、地域ごとの概要、特徴の整理は、新たな視点を取り入れながら継続して行う必要がある。(榊原)

参考文献

- 秋元茂陽2008『徳川將軍家墓碑総覧』
浅野晴樹2007「板碑」『歴史考古学大辞典』吉川弘文館
池上悟2021『山陰歴史考古学論攷』株式会社六一書房
石田茂作1969『日本仏塔の研究』講談社
伊藤菊之輔1968『石見の石造美術』報光社
今岡利江2001「山陰の日引石製品についての一考察」『来待石を中心とした日本海文化』石造物研究会・来待ストーン客員研究員会
今岡利江2012「福光石の分布について」『世界遺産石見銀山の研究 2』島根県教育委員会・大田市教育委員会
今岡利江2012「中国」狭川真一・松井一明編『中世石塔の考古学』高志書院
今岡稔1991「山陰の石塔二三について - 2 -」『島根考古学会誌』第8集 島根考古学会
今岡稔1999「山陰の石塔二三について - 8 -」『島根考古学会誌』第16集 島根考古学会
今岡稔2002「山陰の石塔二三について - 10 -」『島根考古学会誌』第19集 島根考古学会
今岡稔2013「島根県の石造物と益田の御影石石造物」市村高男編『御影石と中世の流通』高志書院
今岡稔2015「山陰の石塔二三について - 20 -」『島根考古学会誌』第32集 島根考古学会
今岡稔2016「山陰の石塔二三について - 21 -」『島根考古学会誌』第33集 島根考古学会
今岡稔2019「浜田市の石塔について」『島根考古学会誌』第36集 島根考古学会
今岡稔2021「浜田市長浜町の石仏・石塔について」『島根考古学会誌』第38集 島根考古学会
岩町功2018「旧浜田藩邸の「庭園」・「掬翠亭」及び「御便殿」関係記事集録」『郷土石見』第106号 石見郷土研究懇話会
岡部敦志1987「島根・鳥取県の板碑」播磨定男 編著『中国地方の板碑』山陽新聞社
小野正敏ほか編2007『歴史考古学大辞典』吉川弘文館
鎌田廣善2000『浜田の仏像・供養塔から塞の神まで 古里の石仏』
川勝政太郎1981『新版 石造美術』政文堂新光社
川崎由美子1996「益田氏のルーツ探訪 伊甘郷の旅」『雪舟の郷 No.5』益田市立雪舟の郷記念館
桑原韶一1983「浜田御菩提所松林山新弘経寺長安院について」『亀山』第8号 浜田市文化財愛護会
桑原韶一2000「長安院境内に残る墓碑名を読んで」『亀山』第27号 浜田市文化財愛護会
庚申懇話会編1975『日本石仏事典』雄山閣
佐伯純也2015「山陰歴史館所蔵板碑群に関する一考察」『米子市立山陰歴史館 紀要 第2号』山陰歴史館
榊原博英2017「浜田城の歴史と石垣の構造」『石見の山城』ハーベスト出版
榊原博英2018「石見府中域の歴史的景観」『石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界』島根県古代文化センター
佐々木謙1956「山陰の板碑」『ひすい31号』佐々木古代文化研究室
佐々木徳三郎1979「随筆」長安院の藩公墓所をめぐって『亀山』第6号 浜田市文化財愛護会
佐々木徳三郎1985「浜田藩公墓所、菩提寺について」『亀山』第12号 浜田市文化財愛護会
島根県教育委員会1985『日脚遺跡』
島根県教育委員会1991『中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』
島根県教育委員会2020『峠口古墓 上古市遺跡』
関根達人2016『越前敦賀湊の中近世石造物』

- 中司健一2021「浜田市三隅町正法寺の棟札」『石見銀山研究－創刊号－』石見銀山研究会
- 西尾克己・樋口英行2004「広瀬・祖父谷丁石塔について」『来待ストーン研究5』来待ストーンミュージアム
- 西尾克己・樋口英行2004「平田・小早川正平墓と興源寺周辺の石塔について」『来待ストーン研究5』来待ストーンミュージアム
- 西尾克己・小川斉子・榑原博英2017「龍雲寺の宝篋印塔について」『世界遺産 石見銀山の調査研究7』島根県教育委員会・大田市教育委員会
- 畠中弘1984「概説・山陰の石仏」『日本の石仏3 山陰、山陽編』国書刊行会
- 浜田市教育委員会2007『浜田市遺跡詳細分布調査－周布地区Ⅰ－』
- 浜田市教育委員会2009『島根県浜田市遺跡地図Ⅰ（浜田自治区）・仕切遺跡』
- 浜田市教育委員会2010『島根県浜田市遺跡地図Ⅱ（金城自治区）・七渡瀬Ⅱ遺跡』
- 浜田市教育委員会2011『島根県浜田市遺跡地図Ⅲ（三隅自治区）・史跡、石見国分寺跡（塔東側の確認調査）』
- 浜田市教育委員会2012『島根県浜田市遺跡地図Ⅳ（弥栄自治区）・浜田城下町試掘調査』
- 浜田市教育委員会2013『島根県浜田市遺跡地図Ⅴ（旭自治区）・浜田市治和町鰐石試掘調査』
- 浜田市教育委員会2017『平成28年度 浜田市内遺跡発掘調査報告書』
- 浜田市文化財愛護協会編1981『亀山』第7号
- 浜田市文化財愛護会1985「元長安院内浜田藩主松平周防守家墓所第五代康員公の墓石修復について」『亀山』第12号
- 浜田市文化財愛護会1987「小篠敏先生の墓・古田重恒の墓・松平武揚の墓 改修記」『亀山』第14号
- 濱野浩美2020「山陰 中世墓終焉の石塔」『中世墓の終焉と石造物』高志書院
- 原宏一1983「1. 鳥取県・島根県」坂詰秀一編『板碑の総合研究 2 地域編』柏書房株式会社
- 平凡社1995『島根県の地名』
- 益田市教育委員会2017『市内石造物調査概報1』
- 益田市教育委員会2020『益田市内石造物調査概報2』
- 松江石造物研究会2014「龍海山三明院佛谷寺に所在する石造物群について」『伯耆文化研究 第15号』伯耆文化研究会
- 間野大丞1996「三隅町の中世石造物」『八雲立つ風土記の丘No.140』島根県立八雲立つ風土記の丘
- 間野大丞1999「益田平野の中世石造物－五輪塔・宝篋印塔を中心にして－」『田中義昭先生退官記念文集 地域に根ざして』
- 間野大丞・伊藤徳弘2021「テーマ別調査研究「港町温泉津の景観と変遷」における石造物調査－中間報告－」『世界遺産 石見銀山遺跡の研究 12』島根県教育委員会・大田市教育委員会
- 三隅町教育委員会1982『ふるさとの文化財』
- 三隅町教育委員会1989『茶屋ヶ峠古墓群・五代上古墓』
- 山口県文書館1970『萩藩閩閩録』第三卷 P600
- 山崎亮・錦織稔之2017「翻刻 藤井宗雄著『石見国神社記』卷三 那賀郡上（後編）」『古代文化研究』第25号

大名墓関係年表

- 元和5 (1619) 古田重治が移封され、浜田藩が成立
- 寛永9 (1632) 徳川秀忠 没 (古田氏による供養塔 極楽寺)
- 寛永14 (1637) 宝珠院がつくられる
- 慶安1 (1648) 古田重恒 没
- 慶安2 (1649) 松井松平 (周防守) 康映が移封され、翌年に長安院を創立
長安院以前は古田家の菩提所 (恵賢寺・永見寺) があったとされる
- 寛文～延宝年間 (1661～)
- 一石宝篋印塔 (福光石) と尖頂墓碑 (花崗岩) が共存し、笠型・円頂の近世墓碑へ
- 延宝2 (1674) 康映没、長安院へ埋葬
- 宝永6 (1709) 長安院大建築が完成したという。
康房 (康員弟) 没
- 正徳3 (1713) 康員没、江戸天徳寺へ埋葬、長安院に遺髪碑
- 享保12 (1727) 康官没、長安院へ埋葬
- 享保20 (1735) 康豊没、長安院へ埋葬
- 宝暦9 (1759) 松井松平康福の転封に伴い、康映・康官・康豊の遺骸石塔は京都光明寺へ改葬。長安院へ墓碑 (花崗岩、康房のみ砂岩)
本多家入封により本多家菩提所西岸寺とされる。
- 明和6 (1769) 本多家移封、松井松平康福再封により、再び長安院となる。
- 安永7 (1778) 門ヶ辻大火の際、長安院は焼失したという。
長安院位牌堂内壁に本多家家紋立葵紋が残り、焼失したかは不明確。
- 寛政1 (1789) 康福没、江戸天徳寺へ埋葬、長安院に遺髪碑 (花崗岩)
- 寛政5 (1793) 長安院再建、本堂9間
境内地の広さ3反7畝9歩
本堂9間4面、庫裏、坊舎、位牌堂
位牌堂前には蓮池があり、橋が架かる
- 享和元 (1801) 東海篠先生 (小篠御野) 之墓 (市史跡) 観音寺 砂岩、儒教色強いもの。
- 文化4 (1807) 康定没、江戸天徳寺へ埋葬、長安院に遺髪碑 (花崗岩)
- 天保7 (1836) 松井松平康爵の転封に伴い、長安院に墓守として庵室を建立
越智松平家 (右近将監家) 移封
- 天保11 (1840) 長安院本堂が龍雲寺の崑山に譲られ、龍雲寺本堂として再建
- 天保13 (1842) 越智松平武揚没、妙智寺へ埋葬 砂岩
- 幕末頃 宝珠院に古田重恒の五輪塔がおかれる。
没年に近い五輪塔ではなく、バランスが崩れている。後に作ったもの。
- 明治8 (1875) 長安院位牌堂近くの小堂再興
- 昭和56 (1981) 頃 長安院位牌堂解体、跡地に斜面墓地より墓碑を9基移す。
- 昭和63 (1988) 豪雨災害により長安院裏山が崩壊し、土砂に埋没。復旧後、現状になる。

表 1 浜田市の主な五輪塔・宝篋印塔

番号	名称	所在地		遺跡番号	石材	形態・数	時期	備考	文献	
1	山根古墓	浜田市	下有福町	L215		宝篋印塔 3				
						一石宝篋印塔				
2	滝ノ下古墓	浜田市	下有福町	L214		一石宝篋印塔 2				
						宝篋印塔 7				
3	浜崎古墓	浜田市	久代町			宝篋印塔		全長78cm		
4	梅ノ木古墓	浜田市	宇野町森原	L240		一石宝篋印塔				
5	横路古墓	浜田市	上府町			一石宝篋印塔				
6	三宅古墓	浜田市	上府町			一石宝篋印塔 2				
7	久畑古墓	浜田市	上府町	L9		宝篋印塔				
						五輪塔				
8	伝御神本(益田)氏の墓(安国寺)	浜田市	上府町	L21		日引石	宝篋印塔	14世紀後半	①伝承なし・大型笠幅1辺49.5cm・輪46cm以上・基礎・塔身欠)	今岡1991・2001
						日引石?	宝篋印塔	15世紀前半	②伝二代・笠(幅1辺28.5cm)	
						日引石?	宝篋印塔	15世紀前半	③伝初代・基礎	
						日引石?	宝篋印塔	15世紀前半	④伝三代・基礎と笠(笠1辺28.5cm)	
							宝篋印塔		基礎のみ(幅31cm)	
9	安国寺裏山石塔(伝御神本氏の墓周辺)	浜田市	上府町		火山礫凝灰岩	一石五輪塔			笠・相輪のみ 塔身欠・伏鉢幅23cmの大型石塔 寛永17(1640)基礎に銘相輪に「空風」伏鉢に「火」	
						宝篋印塔				
					火山礫凝灰岩	宝篋印塔				
10	安国寺東側墓地石塔	浜田市	上府町			宝篋印塔		笠(1辺20cm以上)		
					火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔		h32cm以上,幅15cm		
11	多陀寺古墓群	浜田市	生湯町	L266			宝篋印塔 8			今岡2019
							五輪塔 13			
						砂岩・白?	宝篋印塔			
12	多陀寺古墓群(多陀寺古墓群北西、住職墓地周辺)	浜田市	生湯町		火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔				
13	岡本古墓	浜田市	河内町	L245	火山礫凝灰岩	宝篋印塔 4				
						五輪塔 4				
					砂岩	五輪塔 2				
				火山礫凝灰岩	一石五輪塔					
14	藪土居岡本家古墓	浜田市	後野町		火山礫凝灰岩	宝篋印塔 2				

番号	名称	所在地		遺跡番号	石材	形態・数	時期	備考	文献
15	生湯五輪塔	浜田市	生湯町	L17		五輪塔		相輪、五輪塔は17個体以上	
						宝篋印塔 2			
16	夕日ヶ丘石塔(浜田城)	浜田市	殿町		花崗岩	宝篋印塔	鎌倉	昭和初期に他所から移設?	今岡2002、2012、2013
17	祇園谷 笠塔婆周辺	浜田市	殿町		火山礫凝灰岩	一石五輪塔		笠塔婆は寛永年間に建立された愛宕神社から移設	
18	洞泉寺古墓群	浜田市	清水町		火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔	17世紀	伝吉川元春娘の墓 元亀1(1570)没	
					火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔	17世紀		
19	地久寺古墓	浜田市	大辻町		火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔	17世紀		
20	宝幢寺下石塔	浜田市	長浜町		花崗岩	宝篋印塔	14世紀代	笠部	今岡2015
					日引石?	五輪塔		空風輪	
					凝灰岩?	宝篋印塔		塔身	
21	宝幢寺山南(山麓)	浜田市	長浜町		日引石?、凝灰岩	五輪塔			今岡2021
					日引石?	宝篋印塔		相輪、塔身	
22	訂心寺古墓群	浜田市	長浜町	L277	来待石	宝篋印塔	17世紀?	伝 周布元兼の墓	
					来待石	宝篋印塔	17世紀?	伝 周布元盛の墓	
					火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔 2	17世紀		
						宝篋印塔 3			
23	明清寺前古墓群	浜田市	長浜町	L282	火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔	17世紀	寛文12(1672)基礎に銘	
					火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔	17世紀	寛文 基礎に銘 塔身に「智」	
					火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔 5	17世紀		
24	本要寺	浜田市	長浜町		凝灰岩?	五輪塔		今岡2021	
25	光明寺境内(清水庵横)	浜田市	治和町			五輪塔		空風輪 4・火輪 1・水輪 3	
26	9号線横断橋付近(治和橋北畑)	浜田市	治和町			五輪塔		空風輪 1	
27	旧国道上墓地	浜田市	治和町			五輪塔		火輪 2・水輪 1	
						宝篋印塔		塔身 1	
28	大神社横墓地	浜田市	治和町			五輪塔		火輪 2・空風輪 4・水輪 3	
						宝篋印塔		笠 1・塔身 1	
29	伝周布氏の墓(聖徳寺)	浜田市	周布町	L44	火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔 6	16世紀末~17世紀		浜田市教委 2007
					火山礫凝灰岩	宝篋印塔 3	16世紀末		
						宝篋印塔 3		笠部、塔身	
30	日脚 5号墳 周辺石塔	浜田市	日脚町			一石宝篋印塔	17世紀	笠に「火」塔身に「水」基礎に「地」	島根県教委 1985
31	王子山古墓	浜田市	内村町	L207	火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔 3	16世紀末~17世紀		
					火山礫凝灰岩	一石五輪塔 2	16世紀末~17世紀		

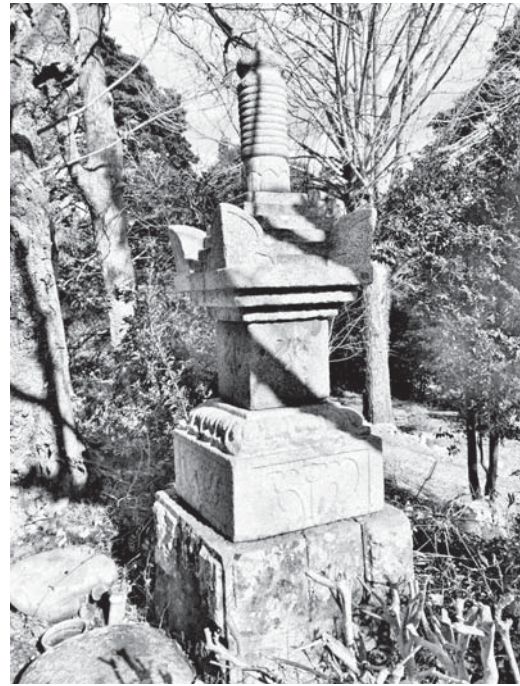
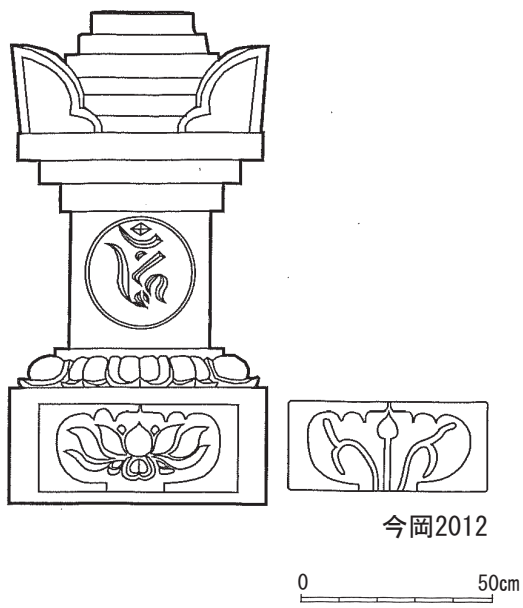
番号	名称	所在地		遺跡番号	石材	形態・数	時期	備考	文献
32	長福寺古墓	浜田市	内村町		火山礫凝灰岩	宝篋印塔	17世紀	相輪	
33	大元神社前	浜田市	横山町			一石五輪塔			
34	大元神社北側墓地	浜田市	横山町			一石宝篋印塔3			
						一石五輪塔			
35	田橋土井石塔群 土井周辺祠 (長浜町 浄慶寺周辺より移転)	浜田市	田橋町		火山礫凝灰岩	一石宝篋印塔	18世紀	宝永6(1709)基礎に銘	
						一石宝篋印塔	17世紀	延宝7(1679)基礎に銘 九輪に「風」笠に「火」塔身に「水」基礎に「地」	
						一石宝篋印塔4			
						一石五輪塔3			
36	大歳神社周辺石塔群 (櫛田原古墓)	浜田市	櫛田原町			一石宝篋印塔4			
37	佐々木家金屋子神祠横	浜田市	櫛田原町			宝篋印塔		笠部	
38	梅木氏宅裏五輪塔集積	浜田市	櫛田原町			五輪塔		空風輪6・火輪1・水輪3	
39	中村氏北東休耕田五輪塔集積	浜田市	櫛田原町			五輪塔		空風輪6・火輪3・水輪1	
40	刀根垣内石塔群	浜田市	櫛田原町			一石宝篋印塔10			
						一石宝篋印塔		寛保 基礎に銘	
						一石宝篋印塔		寛保 基礎に銘	
						一石宝篋印塔		天明4(1784)基礎に銘	
40	刀根垣内石塔群	浜田市	櫛田原町			一石宝篋印塔		天明5(1785)基礎に銘	
						一石宝篋印塔		天保 基礎に銘	
						一石宝篋印塔		天保5(1834)基礎に銘	
						一石宝篋印塔		明治9(1876)基礎に銘	
						宝篋印塔3			
						一石五輪塔			
41	原石塔群	浜田市	櫛田原町			一石宝篋印塔4			
						宝篋印塔2			
						一石五輪塔			
42	寿仙寺跡 (高田横穴群北西)	浜田市	三隅町湊浦			一石宝篋印塔			
						一石五輪塔			
43	廓英法師墓 周辺古墓	浜田市	三隅町三隅	O89		一石五輪塔	江戸初頭	家型の石櫃内 安政年間の墓あり・h55cm	間野1996
						一石宝篋印塔		石櫃外	
						一石宝篋印塔			

番号	名称	所在地		遺跡番号	石材	形態・数	時期	備考	文献
44	伝三隅悪五郎墓	浜田市	三隅町三隅	O19	花崗岩?	五輪塔		正法寺飛地	間野1996、今岡1999
45	伝三隅悪五郎墓周辺石塔	浜田市	三隅町三隅			宝篋印塔		正法寺飛地	
						五輪塔			
					石灰岩?	一石五輪塔	室町後半～安土桃山	h 53cm	
46	伝三隅兼連墓 (正法寺)	浜田市	三隅町三隅	O11					間野1996、今岡1999
47	伝三隅兼連墓周辺石塔 (正法寺)	浜田市	三隅町三隅		日引石	宝篋印塔			
					花崗岩?	五輪塔			
48	洞明寺古墓群	浜田市	三隅町岡崎	O88		宝篋印塔	室町後半		間野1996、今岡1999
						五輪塔			
49	龍雲寺古墓 (伝三隅信兼墓)	浜田市	三隅町芦谷	O97	日引石	宝篋印塔		笠部	今岡2019
50	針藻城山麓石塔群	浜田市	三隅町古市場		花崗岩	宝篋印塔		笠部	今岡2019
					花崗岩	五輪塔		元文3年銘基礎?	
51	極楽寺横古墓 (湊浦中墓地)	浜田市	三隅町湊浦	O91	花崗岩、凝灰岩	宝篋印塔		笠部	今岡2019
					花崗岩	五輪塔		笠部	
52	嶧口古墓	浜田市	三隅町古市場	O98	火山礫凝灰岩	一石五輪塔 3			島根県教委 2020
53	久瀬遺跡	浜田市	三隅町井川	O42		一石宝篋印塔 2		周辺より褐釉無耳壺・約613枚の銭貨 (最新 洪武通宝) 出土	浜田市教委 2011
54	茶屋ヶ峠古墓群	浜田市	三隅町井野	O90	凝灰岩?	宝篋印塔 2		笠部	三隅町教委 1989
55	室谷古墓	浜田市	三隅町室谷	O94		宝篋印塔			
56	追原庄屋跡	浜田市	金城町追原	N85		一石五輪塔		寛保3 (1743) 基礎に銘	
57	万寿寺下墓地 (於局給)	浜田市	金城町七条	N131		一石宝篋印塔 2			
58	佐々弥重古墓	浜田市	旭町山ノ内	M120		一石五輪塔			
59	高畑石塔	浜田市	旭町市木	M68		宝篋印塔			島根県教育員会1991
60	神宮寺石塔	浜田市	旭町和田	M90		宝篋印塔 2		天正二十曆…銘	
61	鹿遊天王祠	浜田市	弥栄町猪遊			一石宝篋印塔			
62	田屋城跡 (木束城跡) 伝三隅兼春墓	浜田市	弥栄町木都賀	P8		一石宝篋印塔		塔身に「○に三」	

表2 浜田市の主な小型板碑

番号	名 称	所 在 地		1 尊	2 尊	3 尊	五輪塔 1	五輪塔 2	宝篋印塔	備 考
1	浜田城山（護国神社参道南側祠）	浜田市	殿町	1						
					2					
2	浜田城山下（裏門横祠）	浜田市	殿町	2						
					8					
3	夕日ヶ丘（浜田城）	浜田市	殿町	6						
4	祇園谷（笠塔婆下の祠）	浜田市	殿町	1						
					2					
5	心覚院東側墓地	浜田市	松原町		2					
6	心覚院観音堂	浜田市	松原町	3						
7	来福寺	浜田市	田町	1						
					1					頂部に2本線
					4					
8	下山稲荷参道下	浜田市	港町	1						
9	宝福寺	浜田市	大辻町	8						
					13					
10	長安院跡（長安院横地蔵堂）	浜田市	蛭子町		1					
11	相生公園入口	浜田市	相生町		1					
12	浅井阿弥陀地藏堂	浜田市	浅井町	1						
13	瓦田酒店隣（お堂）	浜田市	元浜町	1				1		大型
14	洞泉寺	浜田市	清水町		1					
15	神正寺	浜田市	竹迫町	5						
					4					
16	耳地藏	浜田市	竹迫町		1					
17	今井迫	浜田市	相生町	1						
					1					
18	どうどう淵（浜田川横の御堂）	浜田市	黒川町		1					
19	浜田高校東側山裾祠	浜田市	黒川町	1						
					1					頂部に2本線
20	県体西道路横石垣内の窟	浜田市	黒川町		1					
21	荒相大師堂	浜田市	上府町	1						
22	東中学校横 笹山下	浜田市	下府町	1						
23	浄土寺	浜田市	久代町		1					今岡2019
24	慈雲寺	浜田市	後野町	1						
					2					
25	河内バス停周辺	浜田市	河内町		1					
26	大橋下	浜田市	三階町	1						
27	柳内（新田）	浜田市	原井町	1						
28	美川入口	浜田市	熱田町		1					
29	熱田町 国道・県道間御堂	浜田市	熱田町	1						
30	訂心寺	浜田市	長浜町	4						
					1					分布調査では1尊1体
31	禅床院	浜田市	長浜町	2						
					3					
32	宝幢寺下	浜田市	長浜町	5						今岡2015
					2					
						2				

番号	名称	所在地		1尊	2尊	3尊	五輪塔1	五輪塔2	宝篋印塔	備考
33	宝幢寺山南	浜田市	長浜町	7						今岡2021
					4					
34	宝幢山上る	浜田市	長浜町		1					
35	明清寺	浜田市	長浜町	1						
36	本要寺付近	浜田市	長浜町	4						今岡2021
					1					
							1			
37	近世山陰道沿祠	浜田市	長浜町		1					
38	八幡宮前	浜田市	日脚町		2					
39	霊光寺	浜田市	日脚町	1						
40	変電所前 (旧山陰道沿祠)	浜田市	日脚町		2					
					2					
41	津摩町入口 (周布川沿祠)	浜田市	津摩町	1						
42	光明寺	浜田市	津摩町	3						
43	9号横断橋北側	浜田市	治和町	1						
					1					
44	松本	浜田市	内村町	1						
45	田橋町地内	浜田市	田橋町		1					
46	阿閔院	浜田市	内田町	2						
					1					
47	古湊	浜田市	三隅町古湊		1					
48	上古市地藏堂 (古市城下)	浜田市	三隅町古市場	1						
49	上古市地藏堂 (宅地横)	浜田市	三隅町古市場	1						
50	柳谷観音堂	浜田市	三隅町三隅		1					
51	龍雲寺入口から駐車場	浜田市	三隅町芦谷	1						今岡2019
					1					
							1			頂部に2本線、五輪塔内に仏像、梵字
52	洞明寺	浜田市	三隅町岡崎	2						今岡2019
53	針藻城山麓	浜田市	三隅町古市場	1						今岡2019、河原石
54	極楽寺横古墓 (湊浦中墓地)	浜田市	三隅町湊浦	1						今岡2019
55	奥寺石塔群 (M89)	浜田市	旭町和田				1			島根県教育委員会1991
				77	74	2	3	1	0	157



2017年撮影

図1 夕日ヶ丘石塔(花崗岩) 1/20

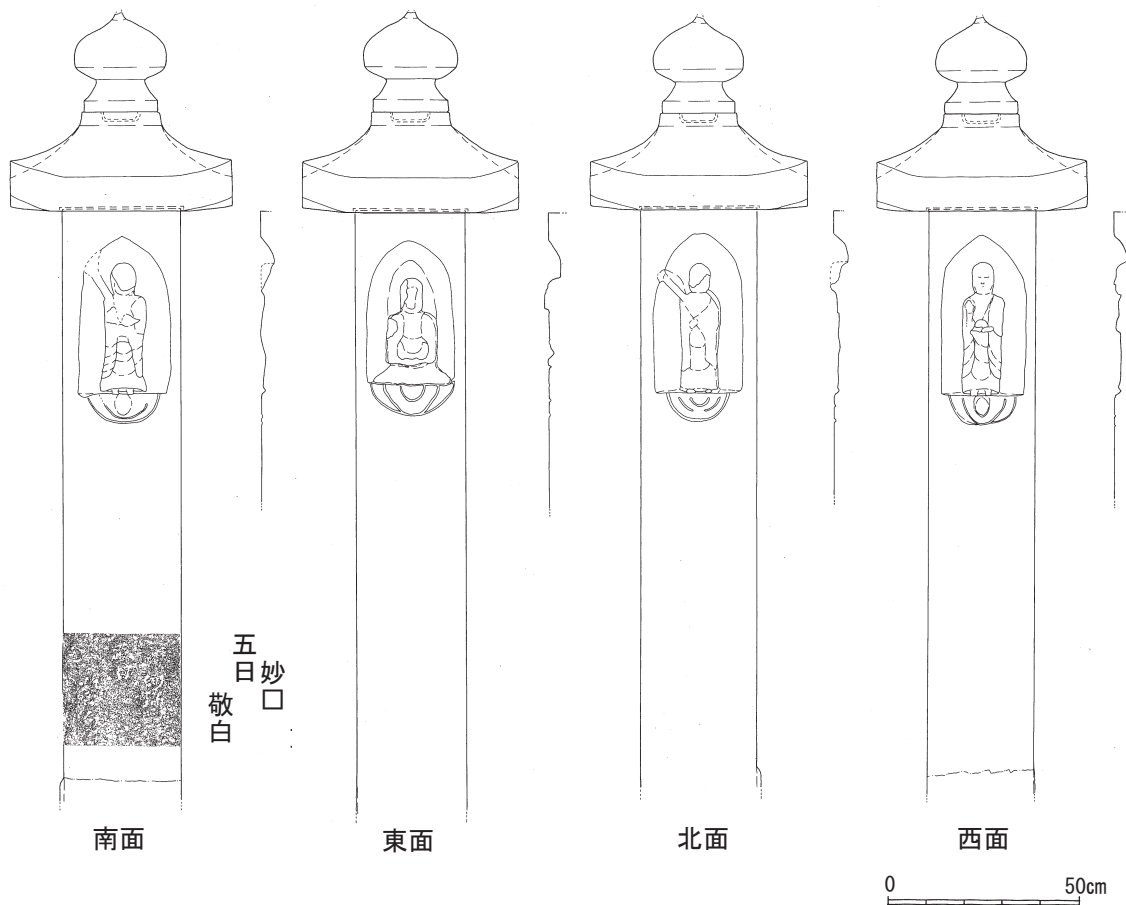
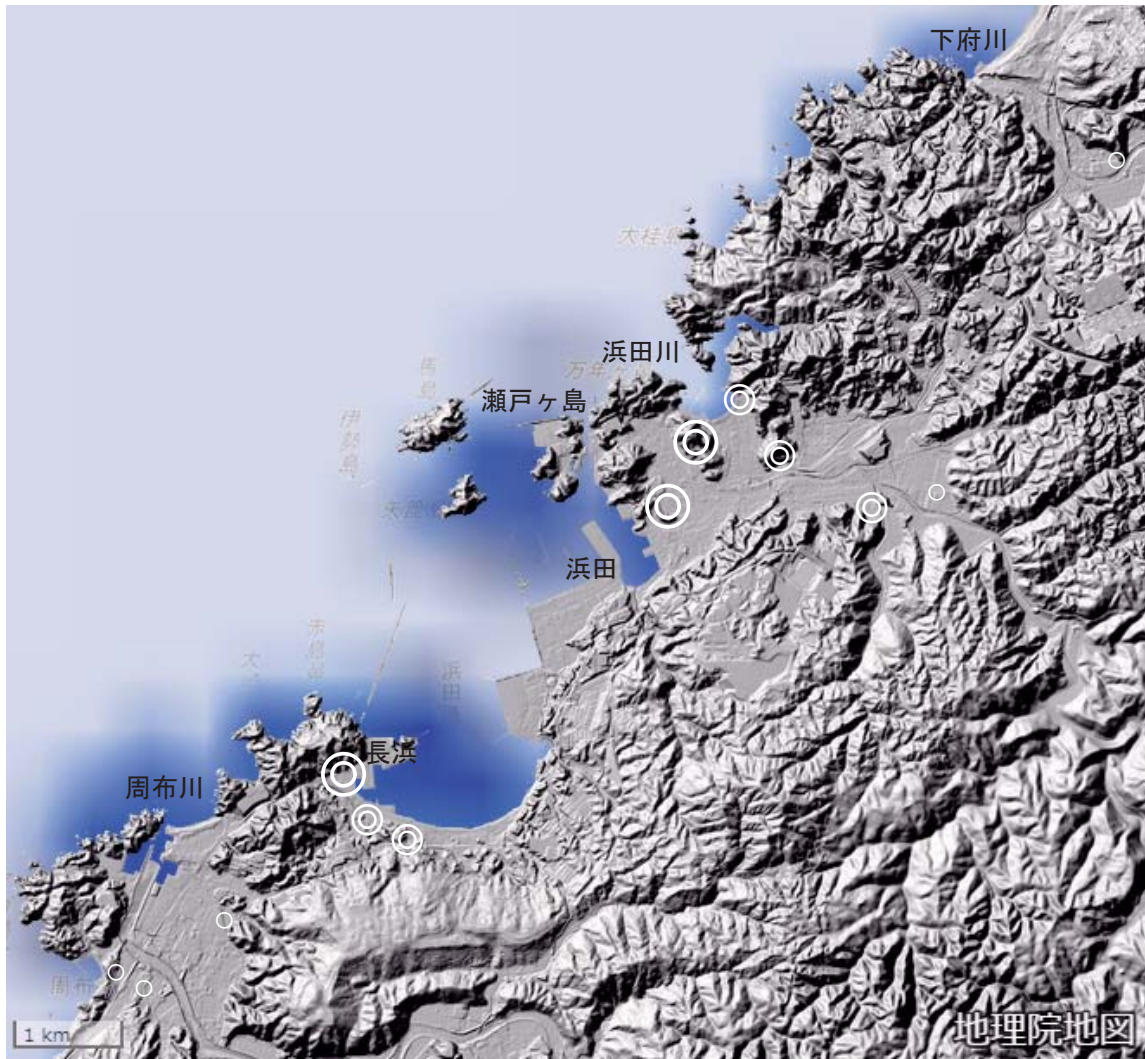


図2 祇園谷石造笠塔婆(花崗岩) 1/20



○ 1~5基 ◎ 5~15基 ⊙ 15基以上 国土地理院地図 (陰影起伏図)
 小型板碑集積 浜田 宝福寺21、長浜 宝幢寺山下21、浜田城山周辺19など

図3 小型板碑の分布 (浜田市沿岸部)

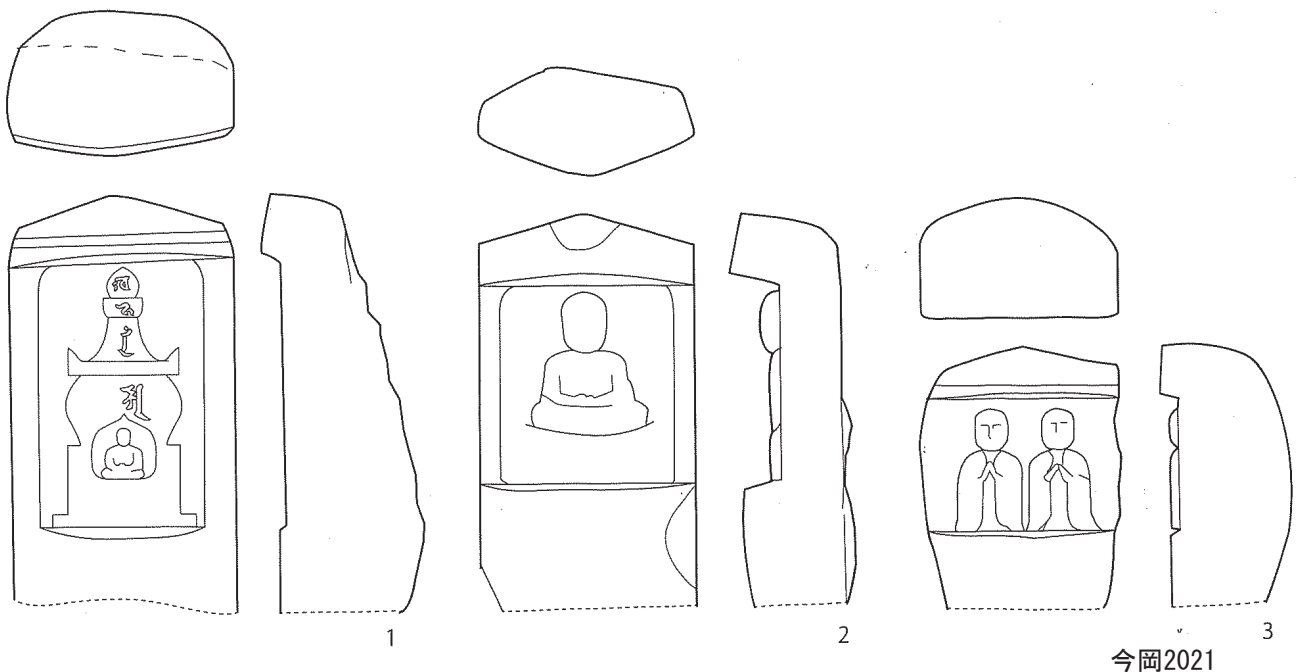


図4 龍雲寺 (三隅町) の小型板碑 (1/8)

今岡2021



宝福寺（大辻町）



来福寺（田町）



龍雲寺（三隅町芦谷 図4-1）



浜田城裏門横（殿町）



奥寺石塔（旭町和田）



浅井阿弥陀地藏堂（浅井町）

写真図版1 浜田市の小型板碑

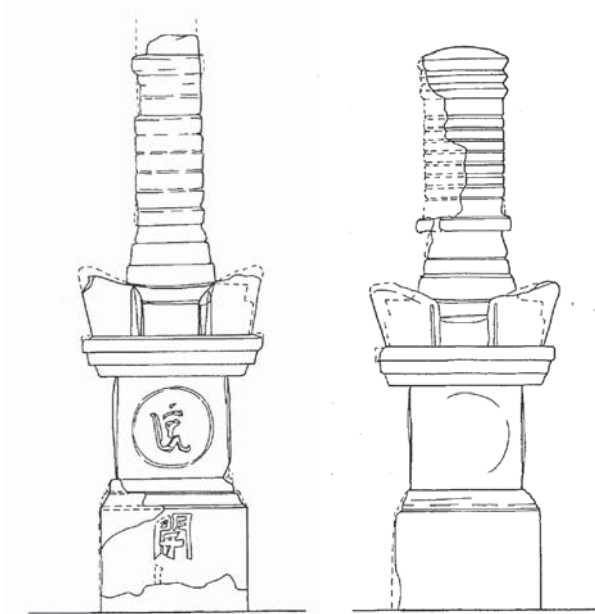


図5 伝 周布元兼・周布元盛墓（来待石） 1/20

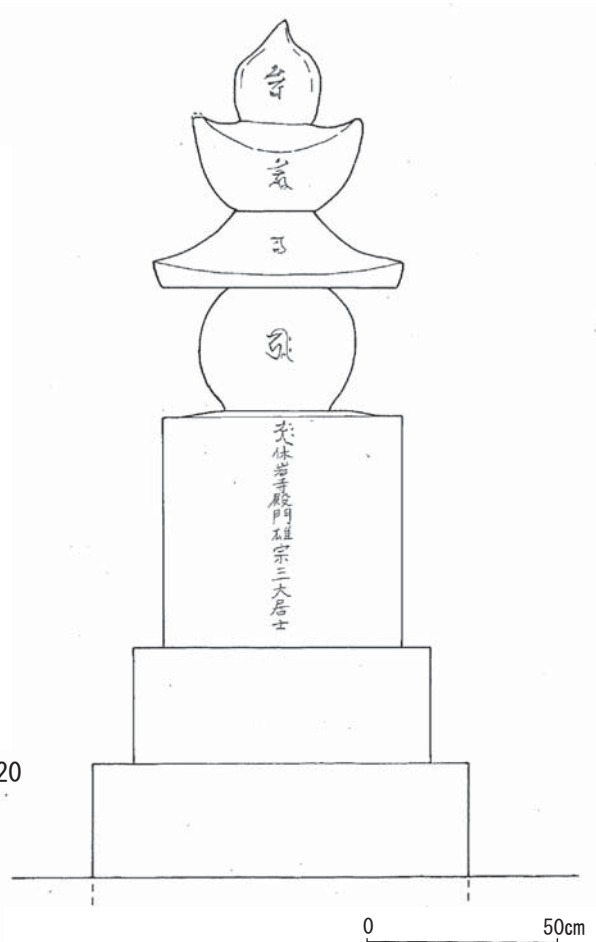
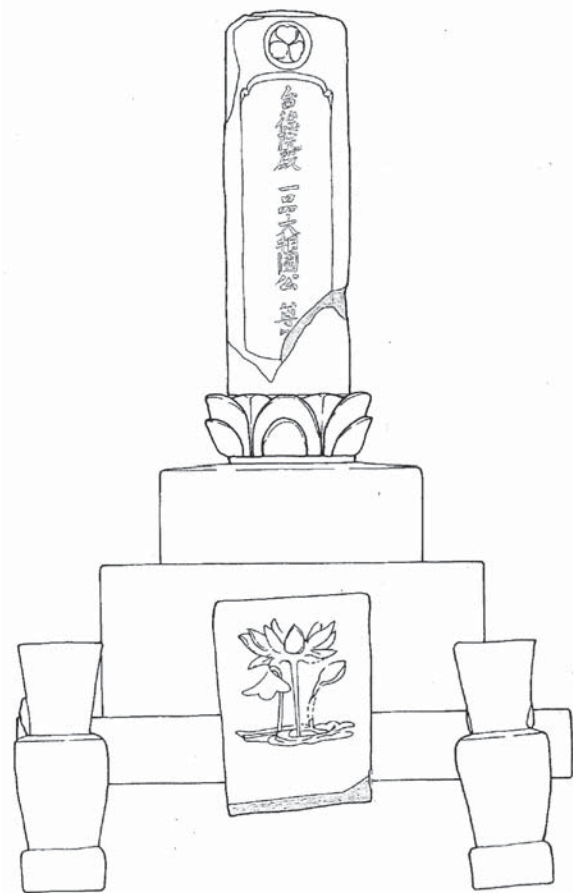
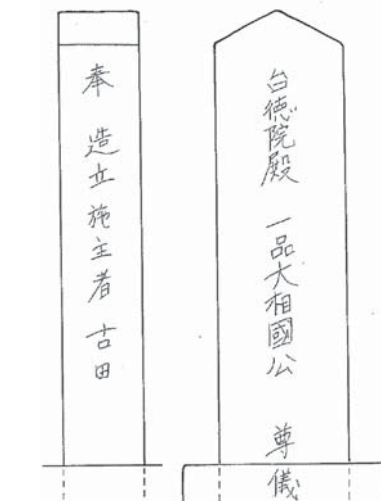


図6 古田重恒 分靈墓（花崗岩） 1/20



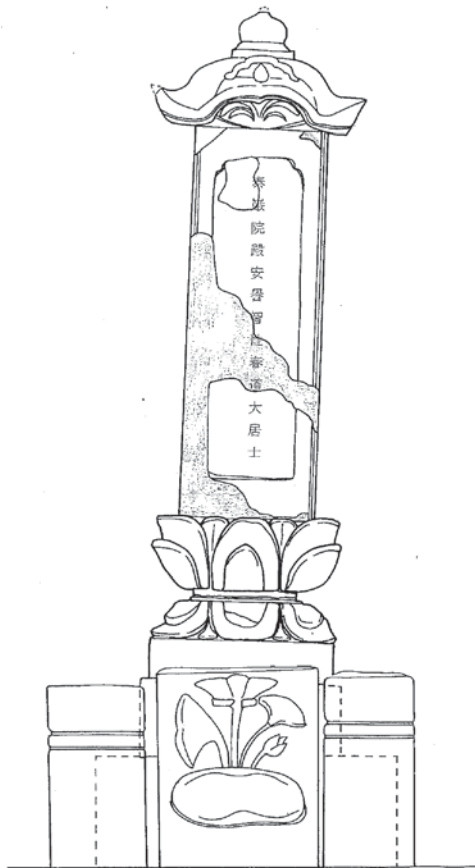
現在の石塔（花崗岩）

図7 徳川秀忠供養塔 1/20

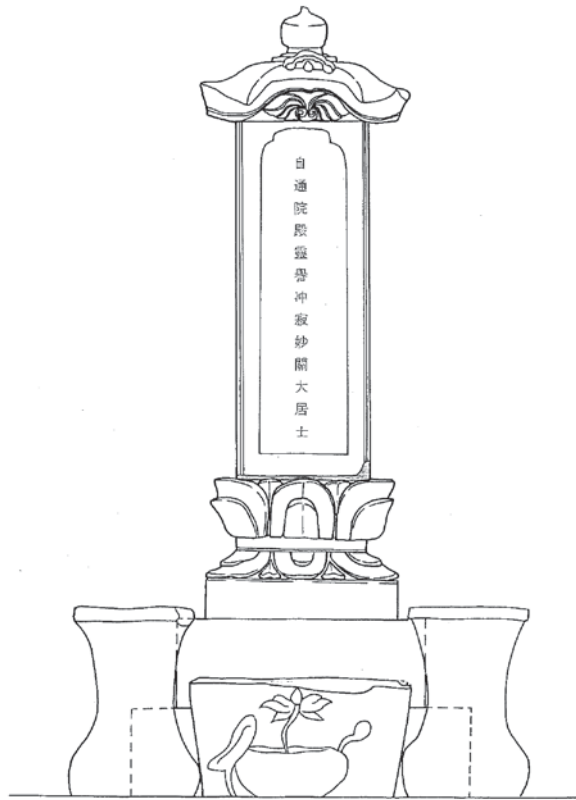


現在の石塔背面の旧石塔（花崗岩）

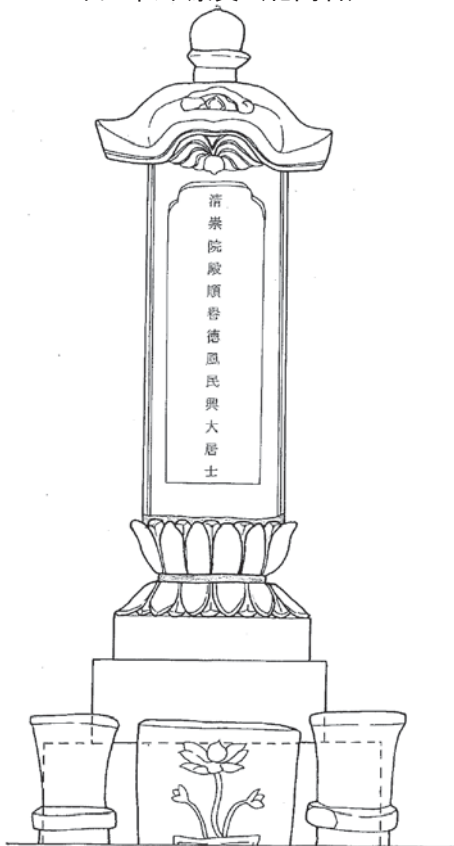
0 50cm



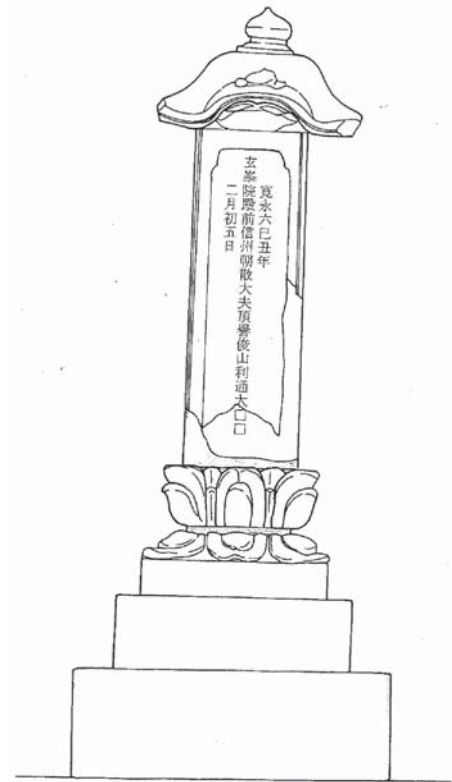
5代 松平康員 (花崗岩)



7・11代 松平康福 (花崗岩)



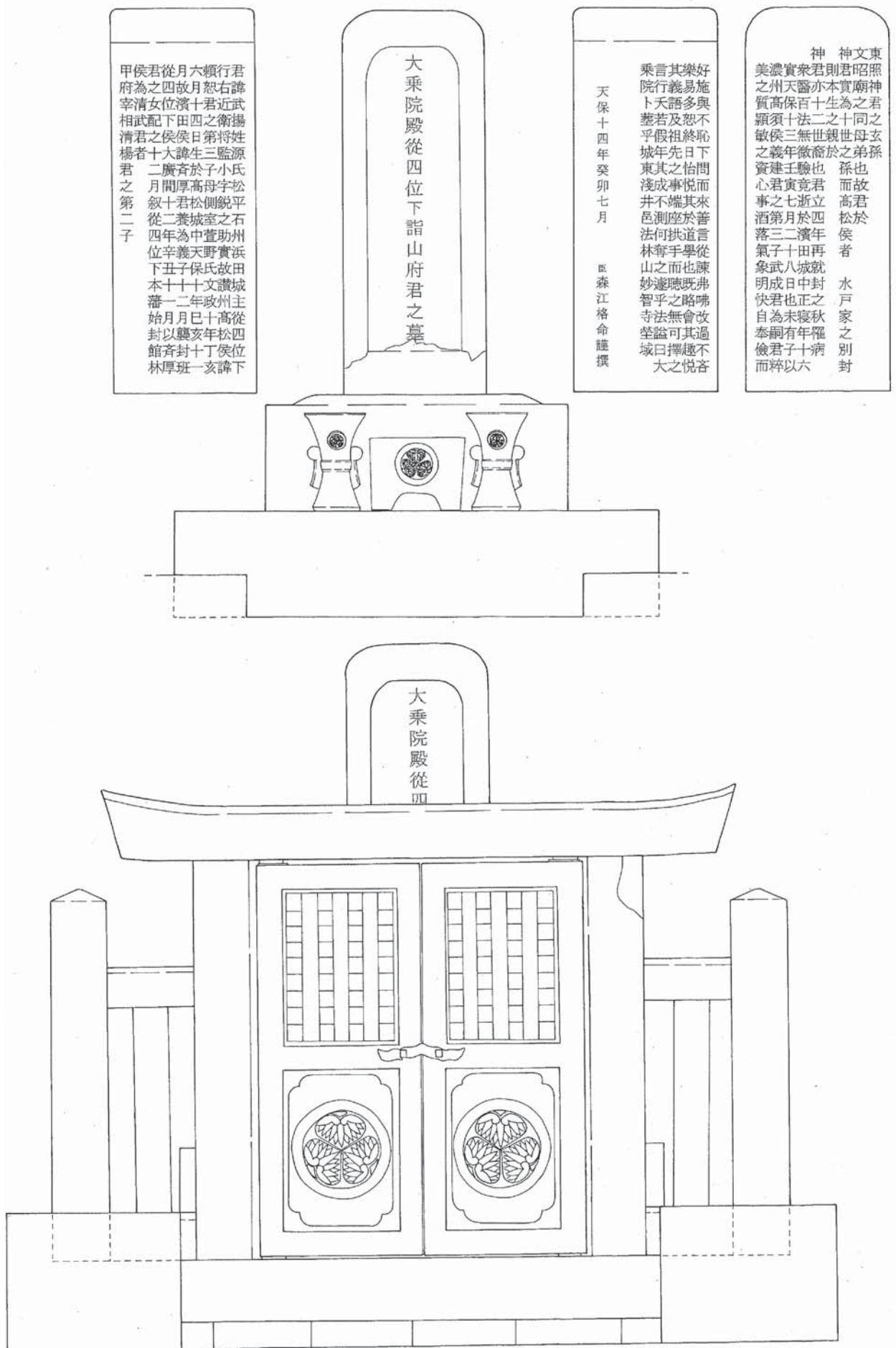
12代 松平康定 (花崗岩)



松平康房(宝珠・笠石・棹石のみ砂岩)

0 50cm

図8 松井松平家 分靈墓 1/20



甲侯君從月六賴行君
府為之四故月恕右諱
宰清女位濱十君近武
相武配下田四之衛揚
清君之侯侯日第將姓
楊者十大諱生三監源
君二廣齊於子小氏
月間厚高母字松
叙十君松側銳平
從二養城室之石
四年為中萱助州
位辛義天野實浜
下丑子保氏故田
本十十文讚城
藩一二年政州主
始以封封十丁侯從
館育封十丁侯從
林厚班一亥諱下

大乘院殿從四位下詣山府君之墓

乘言其樂好
院行義易施
卜天語多與
藝若及恕不
乎假祖終恥
城年先日下
東其之怡問
淺成事悅而
井不端其來
邑測座於善
法何拱道言
林奪手學從
山之而也諫
妙遽聽既弗
智乎之略佛
寺法無會改
瑩隘可其過
域日擇越不
大之悅吝

天保十四年癸卯七月
臣森江格命謹撰

神 神文東
美濃實衆君則君昭照
之州天醫亦本實廟神
質高保百十生為之君
顯須十法二之十同之
敏侯三無世親世弟孫
之義年微裔於之弟孫
資建壬驗也 孫也
心君寅竟君 而故君
事之七浙立 而高君
酒第月於四 侯者
落三二濱年 水戶家
氣子十田再 之別封
象武八城就 封
明成日中封 正之
快君也正之 自為未寢秋
自為未寢秋 奉嗣有年罹
儉君子十病 而粹以六

図9 松平武揚 本葬墓 (砂岩) 1/20

0 50cm

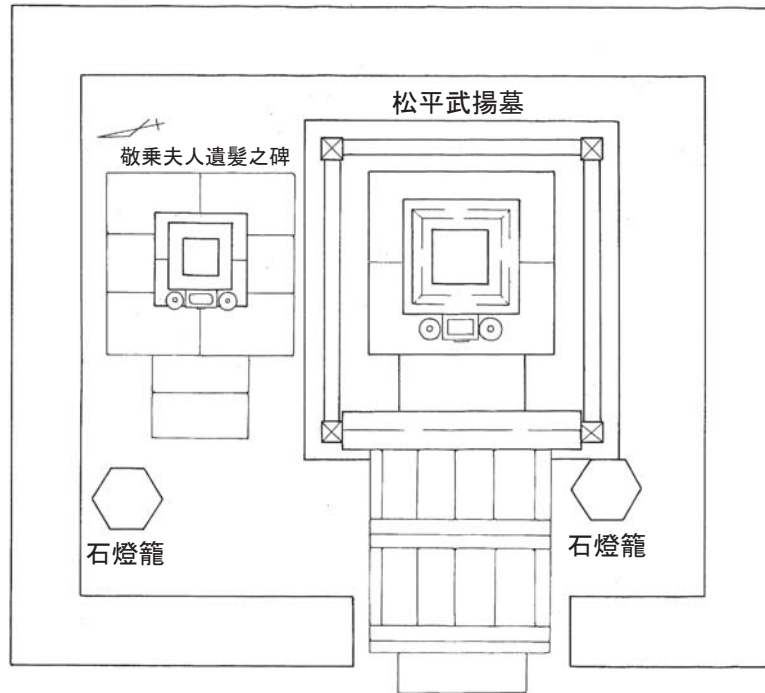


図10 松平武揚 本葬墓 平面図 1/80

表 3 浜田藩主一覧

	藩主		入封・襲封年	生没年	本葬墓地	備考
1	古田家	古田重治	元和5年～元和9年 1619～1623	天正6年～寛永2年 1578～1625	東京都台東区 海禅寺	伊勢国松坂より転封 5万4千石
2		古田重恒	元和9年～慶安元年 1623～1648	慶長8年～慶安元年 1603～1648	東京都港区 泉岳寺	嗣子なく断絶
3	前期 松井松平家	松平康映	慶安2年～延宝2年 1649～1674	元和元年～延宝2年 1615～1674	京都府京都市 光明寺	播磨国宍粟より転封 5万400石
4		松平康官	延宝3年～宝永2年 1675～1705	明暦3年～享保12年 1657～1727	京都府京都市 光明寺	
5		松平康員	宝永2年～宝永6年 1705～1709	～正徳3年 ～1713	東京都港区 天徳寺	
6		松平康豊	宝永6年～享保20年 1709～1735	天和2年～享保20年 1682～1735	京都府京都市 長安院	
7		松平康福	元文元年～宝暦9年 1736～1759	享保4年～寛政元年 1719～1789	東京都港区 天徳寺	下総国古河へ転封
8	本多家	本多忠敏	宝暦9年 1759	享保12年～宝暦9年 1727～1759	東京都府中市 誓願寺	下総国古河より転封 5万400石
9		本多忠盈	宝暦9年～明和4年 1759～1767	～明和4年 ～1767	和歌山県 高野山	
10		本多忠肃	明和4年～明和6年 1767～1769	宝暦9年～安永6年 1759～1777	東京都府中市 誓願寺	三河国岡崎へ転封
11	後期 松井松平家	松平康福	明和6年～寛政元年 1769～1789	享保4年～寛政元年 1719～1789	東京都港区 天徳寺	三河国岡崎より転封 5万400石、 天明5年(1785) 1万石加増
12		松平康定	寛政元年～文化4年 1789～1807	延享4年～文化4年 1747～1807	東京都港区 天徳寺	
13		松平康任	文化4年～天保6年 1807～1835	安永8年～天保12年 1779～1841	東京都港区 天徳寺	
14		松平康爵	天保6年～天保7年 1835～1836	文化7年～慶応4年 1810～1868	東京都港区 天徳寺	奥州棚倉へ転封
15	越智松平家	松平齐厚	天保7年～天保10年 1836～1839	天明3年～天保10年 1783～1839	東京都荒川区 善性寺	上野国館林より転封 6万1千石
16		松平武揚	天保10年～天保13年 1839～1842	文政10年～天保13年 1827～1842	島根県浜田市 妙智寺	妙智寺に本葬墓
17		松平武成	天保13年～弘化4年 1842～1847	～弘化4年 ～1847	東京都荒川区 善性寺	
18		松平武聡	弘化4年～慶応2年 1847～1866	天保13年～明治15年 1842～1882	東京都荒川区 善性寺	幕長戦争により美作国久米へ移り、 鶴田藩と改名



祇園谷石造笠塔婆 (殿町)



古田重恒 五輪塔 (宝珠院)



徳川秀忠供養塔 (新石塔・極楽寺)



松井松平家墓所 (長安院跡)
左より 12代康定・5代康員・7・11代康福・康房



松平武揚墓所 (北西から・妙智寺)



松平武揚墓所 (東から・妙智寺)

写真図版 2 石造笠塔婆・大名墓